

環境保護庁（EPA）、黒色炭素に関する大学研究に 660 万ドルを給付（10 月 18 日）

環境保護庁（EPA）は、黒色炭素（black carbon）の役割と効果について研究する、イリノイ大学アーバナ・シャンペン校（University of Illinois at Urbana-Champaign、イリノイ州）、カーネギーメロン大学（Carnegie Mellon University、ペンシルバニア州）、カリフォルニア州立大学アーバイン校（University of California, Irvine、カリフォルニア州）など 8 大学に対し、同庁の「成果を出すための科学（Science to Achieve Results : STAR）」プログラムを通じて 660 万ドル以上の助成金を交付することを発表した。この研究助成金を取得した各大学は、黒色炭素が空気および水質に与える影響について分析したり、黒色炭素エアロゾル（black carbon aerosols）の大気中における反応について調査したりする他、雪に滞留する黒色炭素を分析するコンピュータモデルなどの革新的なツールの開発を行う予定である。

U.S. Environmental Protection Agency, *EPA Awards \$6.6 Million to Universities for Black Carbon Research*

<http://yosemite.epa.gov/opa/admpress.nsf/0/9995441262F35D748525792D00637FB2>